

研 修 区 分 表

令和4年6月21日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通 学	通 信	実 習	計	
1 職務の理解 (6 時間)	6	0		6	到達目標 ・研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について具体的なイメージを持って実感できるようになる。 ・介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って以降の研修に実践的に取り組めるようになる。
(1) 多様なサービスの理解	3	0		3	〈講義内容〉 ●介護保険サービス（居宅、施設） ●介護保険外サービス 〈演習の実施方法〉 ●視聴覚教材を使用し、介護職が働く現場の仕事の内容を理解する。
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	0		3	〈講義内容〉 ●居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事の内容 ●居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ●ケアプランの位置付けに始まりに始まり、サービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・多職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 〈演習の実施方法〉 ●グループワークを行い尊厳を支えるということはどういうことか理解する。
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)	4	5		9	到達目標 ・介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚する。 ・自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するに当たっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解する。
(1) 人権と尊厳を支える介護	1	2.5		3.5	〈通信学習課題の内容〉 ●IQF ●QOL ●ノーマライゼーション ●人権と尊厳の保持 〈講義の内容〉 ●ノーマライゼーション ・ノーマライゼーションの考え方 ●虐待防止・身体拘束禁止 ・身体拘束禁止・高齢者虐待防止法・高齢者の養護者支援 ●個人の権利を守る制度の概要 ・個人情報保護法・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業・生活保護制度
(2) 自立に向けた介護	1	2.5		3.5	〈通信学習課題の内容〉 ●自立支援 ・自立支援のための介護方法 〈講義の内容〉

				●自立支援 ・自立・自立支援・持っている能力の活用 ●介護予防 ・介護予防の考え方
(3) 人権に関する基礎知識	2		2	〈講義の内容〉 ●人権について ●人権への取り組み ●身近な人権の事
3 介護の基本	3	3	6	到達目標 ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気付く ・職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 ・介護職を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1	1	2	〈通信学習課題の内容〉 ●介護の役割、専門性と多職種との連携 ・介護の専門性 ・介護に関わる職種 〈講義の内容〉 ●介護環境の特徴の理解 ・訪問介護と施設介護サービスの違い・地域包括ケアの方向性 ●介護の専門性 ・重度化防止・遅延化 ・医療職と連携して利用者を支える意味 ・互いの専門能力を活用した効果的なサービスの提供・チームケアにおける役割分担 〈演習の実施方法〉 ●グループに分かれ、講師の指導のもと、ディスカッションを行う
(2) 介護職の職業倫理	1	1	2	〈通信学習課題の内容〉 ●専門職の倫理の意義 ●介護職員の倫理における「プライバシーの保護・尊重」 〈講義の内容〉 ●職業倫理 ・専門職の倫理の意義・介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉制度等）・介護職員としての社会的責任・プライバシーの保護・尊重 〈演習の実施方法〉 ●グループに分かれ、講師の指導のもと、ディスカッションを行う
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	0.5	0.5	1	〈通信学習課題の内容〉 ●介護における安全の確保 ●リスクマネジメント 〈講義の内容〉 ●介護における安全の確保 ・ハザードリスク・事故に結びつく要因を探り対応していく技術 ●事故予防、安全対策 ・リスクマネジメント・リスク分析の手法と視点 ・事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等）・情報の共有 ●感染対策 ・感染の種類・感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断） ・感染にたいする正しい知識 〈演習の実施方法〉

				●グループに分かれ、講師の指導のもと、ディスカッションを行う
(4) 介護職の安全	0.5	0.5	1	〈通信学習課題の内容〉 ●介護職の健康管理 ●ストレスマネジメント 〈講義の内容〉 ●介護職の心身の健康管理 ・介護職員の健康管理・ストレスマネジメント・腰痛予防に関する知識・感染予防対策・手洗い・うがいの励行・手洗いの基本 〈演習の実施方法〉 ●感染症予防対策を踏まえた手洗いやガウン着脱を行う。
4 介護・福祉サービスの理解と医療の連携	6.0	3.0	9	到達目標 ・介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務についてその概要のポイントを列挙出来るようになります。
(1) 介護保険制度	1.5	1.5	3	〈通信学習課題の内容〉 ●介護保険制度 ●介護保険制度を支える財源 〈講義の内容〉 ●介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ・ケアマネジメント・予防重視型システムへの転換 ・地域包括支援センターの設置・地域包括ケアシステムの推進 ●しくみの基礎的理解 ・保険制度としての基本的仕組み・介護給付と種類 ・予防給付・要介護認定の手順 ●制度を支える財源、組織団体の機能と役割 ・財政負担・指定介護サービス事業者の指定 〈演習の実施方法〉 ●グループワークを行い、介護保険の理念等の理解を深める。
(2) 医療との連携とリハビリテーション	3.0	0	3	〈講義の内容〉 ●医行為と介護、訪問看護、施設における看護と介護の役割・連携 ●リハビリテーションの理念
(3) 障がい者総合支援制度およびその他制度	1.5	1.5	3	〈通信学習課題の内容〉 ●身体障がい者福祉制度 ●障がい者総合福祉法 〈講義の内容〉 ●障がい者福祉制度の理念 ・障がい者福祉制度の歴史 ●障がい者自立支援法 ・障がい者自立支援法の概要・介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで ●障がい者総合支援法のしくみと基礎的理解 ・障がい者総合支援法の概要・谷間のない支援 〈演習の実施方法〉 ●グループに分かれて、講師の指導のもとディスカッションを行う。
5 介護におけるコミュニケーション技術	3	3	6	到達目標 ・高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとりと異なることを理解する。 ・上記の趣意を認識してコミュニケーションを取ることが専門職と求められていることを理解する。 ・初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解する。
(1) 介護におけるコミュニケーション	1.5	1.5	3	〈通信学習課題の内容〉 ●介護におけるコミュニケーション ●記録に関する内容

				〈講義の内容〉 ●介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 ・傾聴・共感の応答 ●コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ・言語的コミュニケーションの特徴・非言語的コミュニケーションの特徴 ・障害を補う道具 ●利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の思いを把握する・意欲低下の要因を考える・利用者の感情に共感する ・家族への心理的理解・家族へのいけわりと励まし・信頼関係の形成 ・自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする ・アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い ●利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ・視力・聴覚障害に応じたコミュニケーション技術・失語症に応じたコミュニケーション技術 ・構音障害に応じたコミュニケーション技術 ・認知症に応じたコミュニケーション技術 〈演習の実施方法〉 ●グループに分かれて、講師の指導のもとディスカッションを行う。
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	1.5	1.5	3	〈通信学習課題の内容〉 ●介護におけるチームコミュニケーションの効果と意義 ●コミュニケーション技法 〈講義の内容〉 ●チームコミュニケーション基本—報告・連絡・相談 ・介護におけるチームコミュニケーションの必要性・「報告・連絡・相談」とは ●コミュニケーションを促す環境づくり ・会議の目的と意義・情報共有の場・役割の認識の場・ケアカンファレンスの重要性 ●記録における情報の共有化 ・介護における記録の意義・目的・利用者の状態を踏まえた観察と記録 ・介護に関する記録の種類・個別援助計画書 〈演習の実施方法〉 ●グループに分かれて、講師の指導のもとディスカッションを行う。
6 老化の理解	3	3	6	到達目標 ・加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理学的側面から理解することの重要性に気付く。 ・加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、自ら積極的に学習すべき事柄を理解する。
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常	1.5	1.5	3	〈通信学習課題の内容〉 ●老化に伴う心身の変化 ●身体的機能の変化と日常生活への影響 〈講義の内容〉 ●老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・防御反応（反射）の変化・喪失体験 ●老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ・身体的機能の変化と日常生活への影響・咀嚼機能の低下・筋・骨・関節の変化 ・体温維持機能の変化・精神的機能の変化と日常生活への影響 〈演習の実施方法〉 ●講師の指導のもと、グループワークを行う。
(2) 高齢者と健康	1.5	1.5	3	〈通信学習課題の内容〉 ●加齢による筋・関節・骨の変化 ●高齢者と健康 〈講義の内容〉 ●高齢者の疾病と生活上の留意点 ・骨折・筋力の低下と動き・姿勢の変化・関節痛

				●高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ・生活習慣病・がん（悪性腫瘍）・循環器の病気・呼吸器の病気・消化器の病気 ・腎・内分泌系の病気・脳神経系の病気・筋・骨格系の病気・泌尿器の病気 ・皮膚の病気・感染症・その他の病気・特定疾病 〈演習の実施方法〉 ●講師の指導のもと、グループワークを行う。
7 認知症の理解	3	3	6	到達目標 ・介護において認知症を理解することの必要性に気づく ・認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解する。
(1) 認知症を取り巻く状況	0.5	0.5	1.0	〈通信学習課題の内容〉 ●認知症ケアについて ●認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式 〈講義の内容〉 ●認知症ケアの理念 ・パーソン・センタードケア・認知症ケアの視点（できることに着目する）
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.0	0.5	1.5	〈通信学習課題の内容〉 ●通常のもの忘れと認知症の違い ●認知症 〈講義の内容〉 ●認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアポイントの、健康管理 ・認知症の定義・もの忘れとの違い・せん妄の症状 〈演習の実施方法〉 ●講師の指導のもと、グループワークを行う。
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	0.5	1.0	1.5	〈通信学習課題の内容〉 ●認知症の行動・心理症状（BPSD） ●認知症のある人へのケア 〈講義の内容〉 ●認知症の人の生活障害 ・認知症の中核症状・認知症の行動・心理症状（BPSD） ・不適切なケア・生活環境を改善 ●認知症の利用者への対応 ・本人の気持ちを推察する・プライドを傷つけない ・相手の世界に合わせる・失敗しないような状況をつくる ・すべての援助行為がコミュニケーションであると考えること ・身体を通したコミュニケーション・相手の様子・表情・視線姿勢などから気持ちを洞察する。認知症の進行にあわせたケア
(4) 家族への支援	1.0	1.0	2.0	〈通信学習課題の内容〉 ●家族介護者へのレスパイトケア ●認知症がある利用者を持つ家族の心の移り変わり 〈講義の内容〉 ●認知症の受容課程での援助 ●介護負担の軽減（レスパイトケア） 〈演習の実施方法〉 ●講師の指導のもと、グループワークを行う。
8 障害の理解	1.5	1.5	3.0	到達目標 ・障害の概念と ICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解する。 ・障害者の介護における基本的な考え方について理解している。
(1) 障がいの基礎的理解	0.5	0.5	1.0	〈通信学習課題の内容〉 ●障害の概念と ICF ●障害福祉の基本理念 〈講義の内容〉

				●障害の概念と ICF ・ ICF の分類と医学的分類・ ICF の考え方 ●障害者福祉の基本理念 ・ 社会的支援の考え方・リハビリテーションとノーマライゼーション 〈演習の実施方法〉 ●講師の指導のもと、グループワークを行う。
(2) 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かわり支援等の基礎的知識	0.5	0.5	1.0	〈通信学習課題の内容〉 ●肢体不自由の特徴 ●発達障害 〈講義の内容〉 ●身体障がい ・ 視覚障がい、聴覚、平衡障がい、音声、言語、咀嚼障害 - 肢体不自由、内部障がい ●知的障がい ・ 知的障がい ●精神障害 ・ 統合失調症、気分障がい、依存症、その他の精神障がい (パニック障がい、PTSD) ●発達障がい ・ 広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がい - その他の発達障害(トゥレット症候群、強迫運動障がいなど) ●その他の心身の機能障がい ・ 高次脳機能障がい
(3) 家族の心理、かわり支援の理解	0.5	0.5	1.0	〈通信学習課題の内容〉 ●家族のストレス ●障害に対する家族の心理 〈講義の内容〉 ●家族への支援 ・ 障がいの理解・障がいの受容支援・介護負担の軽減
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	63	12	75	到達目標 ・ 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得する。 ・ 安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部又は全介助等の介護が実施できる。 ・ 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、もてる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 ・ 基本知識の学習の後に、生活支援技術等の学習を行い、最後に事例に基づく総合的な演習を行う。
(1) 介護の基本的な考え方	2.0	2.0	4.0	〈通信学習課題の内容〉 ●適切な介護を行うための基本的な考え。 〈講義の内容〉 ●倫理に基づく介護 ・ ICF の視点に基づく生活支援、我流介護の排除 ●法的根拠に基づく介護 〈演習の実施方法〉 ●講師の指導のもと、グループワークを行う。
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	2.0	1.0	3.0	〈通信学習課題の内容〉 ●老いによるこころのしくみ ・ 学習と記憶、感情と意欲の基礎知識 〈講義の内容〉 ●自己概念と生きがい ●老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因 ●こころの持ち方が行動に与える影響

				●からだの状態がこころに与える影響 〈演習の実施方法〉 ●講師の指導のもと、グループワークを行う。
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	2.0	1.0	3.0	〈通信学習課題の内容〉 ●人体の基礎知識 ・人体の各部の名称と働き、骨、関節、筋に関する基礎知識 〈講義の内容〉 ●ボディメカニクスの活用 ●中枢神経と体性神経に関する基礎知識 ●自立神経と内部器官に関する基礎知識 ●こころとからだを一体化に捉える ●利用者の様子の普段との違いに気付く視点 ●緊急時の対応 〈演習の実施方法〉 ●グループに分かれ、講師の指導のもと、討論を適宜実施する。
(4) 生活と家事	3.0	1.0	4.0	〈通信学習課題の内容〉 ●生活援助 〈講義の内容〉 ●家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ・生活暦、自立支援、予防的な対応、主体性、能動性を引き出す、多様な生活習慣、価値観 〈演習の実施方法〉 ●グループに分かれ、講師の指導のもと、討論を適宜実施する。
(5) 快適な居住環境整備と介護	3.0	2.0	5.0	〈通信学習課題の内容〉 ●高齢者の居住環境 〈講義の内容〉 ●快適な居住環境に関する基礎知識 ・家庭内に多い事故、バリアフリー ●高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に留意点と支援方法 ●グループに分かれ、講師の指導のもと、討論を適宜実施する。
(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6.5		6.5	〈講義の内容〉 ●整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身たく、整容動、洗面の意義、効果 〈実技演習の実施方法〉 ●グループに分かれ講師の指導のもと、ロールプレイングや、衣類着脱等の実技体験演習を実施する。
(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6.5		6.5	〈講義の内容〉 ●移動・移乗に関する基礎知識、用具とその活用方法、移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と利用者、介護者にとって負担の少ない支援方法 移動と社会参加の留意点と支援 ・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法・利用者の自然な動きの活用、持っている野力の活用、自立支援、重心、重力の動きの理解 ボディメカニクスの基本原則 ・移乗介助の具体的な方法、移動介助（車いす、歩行器、杖等） 〈実技演習の実施方法〉 ●グループに分かれ、講師の指導のもと、移乗の介護、移動の介護に関する実技体験演習を実施する
(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6.5		6.5	〈講義の内容〉 ●食事と社会参加留意点と支援や基礎知識、食事環境の整備、食事に関連した用具 食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい意食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ・食事の意義、食事のケアに対する介護者の意識、低栄養の弊害、脱水の弊害 食事と姿勢、咀嚼、嚥下のメカニズム、空腹感、満腹感、好み

				食事の環境整備、食事に関した福祉用具の活用と介助方法、服薬介助 口腔ケアの定義、誤嚥性肺炎の予防 〈実技演習の実施方法〉 ●グループに分かれ、講師の指導のもと、食事の介護に関連する実技体験演習を実施する
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.5		6.5	〈講義の内容〉 ●入浴、清潔保持に関連した基礎知識、入浴用具と整容用具の活用方法、入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ・羞恥心や遠慮への配慮、体調の確認、全身清潔、足浴、手浴、洗髪、陰部洗浄（臥床状態での方法）・目・鼻腔・耳・爪の清潔方法 〈実技演習の実施方法〉 ●グループに分かれ、講師の指導のもと、入浴の介護、清潔保持に関する実技体験演習を実施する
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.5		6.5	〈講義の内容〉 ●排泄に関する基礎知識や排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 〈実技演習の実施方法〉 ●グループに分かれ、講師の指導のもと、排泄の介護に関する実技体験実習を実施する。
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.5		6.5	〈講義の内容〉 ●睡眠に関する基礎知識、様々な睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ・安眠のための介護の工夫・環境の整備・安楽な姿勢・褥瘡予防 〈実技演習の実施方法〉 ●グループに分かれ、講師の指導のもと実際に安楽な姿勢、褥瘡予防に関連する実技体験実習を実施する
(12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3.0	2.0	5.0	〈通信学習課題の内容〉 ●ターミナルケア 〈講義の内容〉 ●終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への課程「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援 ・終末期ケアとは、高齢者の死に至る過程、臨終が近づいたときの兆候と介護、介護従事者の基本的態度 ・多職種間の情報共有の必要性 〈演習の実施方法〉 ●グループに分かれ、講師の指導のもとグループディスカッションを行う
(14) 介護過程の基礎的理解	3.0	3.0	6.0	〈通信学習課題の内容〉 ●介護過程の目的 〈講義の内容〉 ●介護家庭の目的、意義、展開、介護過程とチームアプローチ 〈演習の実施方法〉 ●グループに分かれ、講師の指導のもとグループディスカッションを行う
(15) 総合生活支援技術演習	6.0		6.0	〈講義の内容〉 ●事例の提示⇒ところとからだの力が発揮できない要因の分析⇒適切な支援技術の検討⇒支援技術演習⇒支援技術の課題 ・事例：高齢（80歳）要支援3、認知症 〈演習の実施方法〉 ●グループに分かれ、講師の指導のもと実技演習を行う ・事例：1 高齢（84歳）要支援2、認知症（帰宅願望/無気力） ・事例：2 高齢（73歳）要支援2、右片麻痺、糖尿病、独居
10 振り返り	4.0		4.0	到達目標

				・研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行う ・就業後も継続して学習、研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る
(1) 振り返り	2.5		2.5	〈講義の内容〉 ●研修を通じて学んだこと ●今後継続して学ぶべきこと ●根拠に基づく介護についての要点 〈演習の実施方法〉 ●講師の指導のもと、研修を通して学んだこと、継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護の要点等、グループワークを行う。
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1.5		1.5	〈講義の内容〉 ●継続的に学ぶこと ●研修修了後における継続的な研修について具体的にイメージ出来るような事業所等における実例（OJT、Off-JT）を紹介 ●キャリアアップに関する国の考え方 〈演習の実施方法〉 ●講師の指導のもと、継続的な研修の必要性をグループワークを行い理解を深める。